協同的読解活動が批判的読解に及ぼす影響(2)

○沖林洋平 1・藤木大介 2
(1 山口大学教育学部・2 愛知教育大学)

目　的

本実験では，協同的読解活動が批判的読解に及ぼす影響について検討した。批判的読解とは，批判的思考を適用した読解活動であるとされる。批判的思考の定義は研究者によって様々であり完全な一致をみることはないが，楠見(2011)は，これまでの研究をまとめた結果，次のような概念的定義を行っている。すなわち，「1．批判的思考は，論理的・合理的思考であり，規準(Criteria)に従う思考である(楠見，1996)。2．批判的思考とは，自分の推論プロセスを意識的に吟味する内省的(Reflective)・熟慮的思考である。3．批判的思考とは，より良い思考を行うために，目標や文脈に応じて実行される目標志向的思考である(Halpern, 1998；楠見，1996)」本研究における批判的読解とは，目的に応じて自らの読解過程を内省的・熟慮的に意識的に吟味しながら進める読解活動であるといえる。そのような，批判的読解を促進する教授法の 1 つとして，本研究では協同的読解活動に注目した。その際，沖林・藤木(2012)では，単純に，対立する議論を主張する材料 2 つを提示してグループとしての意見を提示するという方法を用いたが，沖林・藤木(2012)では，協同的読解活動による認知的変化は見られたが，実際の読解力課題の成績の向上には影響は見られなかった。そこで，本研究では，協同学習場面の前に，読解方略を提示し，モデルを示すことによって，読解方略を意識しながら，協同的読解活動を促進することを狙った。

方　法

実験参加者　山口大学の大学生 60 名。

実験計画　協同的読解活動後の批判的思考の教授の有無，協同的読解活動前後の 2×2 の実験計画とした。

材料　1．批判的読解力課題(沖林，2012)　ゼックミスタの批判的思考の教科書から 3 題を選び自作した。本課題では批判的思考力のうち，比較対象を設定できるか，過度の一般化を指摘できるか，などを測定した。

2．批判的思考態度尺度(楠見・平山，2009)　4 因子構造，12 項目

3．協同作業認識尺度(長濱・安永・関田・甲原，2009)　3 因子構造，17 項目

手続き

本研究は，オムニバスの授業の一環として行われた。まず，尺度および批判的読解力課題を実施した。次に協同的読解を行う前に，一般的な読解方略について，実験者から簡単に説明を行った。その後，対立する主張をする 2 つの文章教材を読ませ，それに対して，グループでどのように判断するか，という課題を実施した。これを 1 回の授業で 1 回ずつ実施し，2 回目の授業で尺度，及び読解力課題を実施した。

結果と考察

本研究では，事後の協同作業認識尺度と，事後の読解力得点の結果について説明する。まず，事後の協同作業認識尺度の下位因子と読解力得点には全て有意な正の相関がみられた。(協同効用因子 r=.418; 個人志向因子 r=.379; 互恵懸念因子 r=412)。

次に，事後の協同作業認識尺度得点の下位因子と批判的読解力得点について階層的重回帰分析を行った結果，協同効用因子と批判的読解力得点の間にのみ交互作用が見られた(Figure 1)

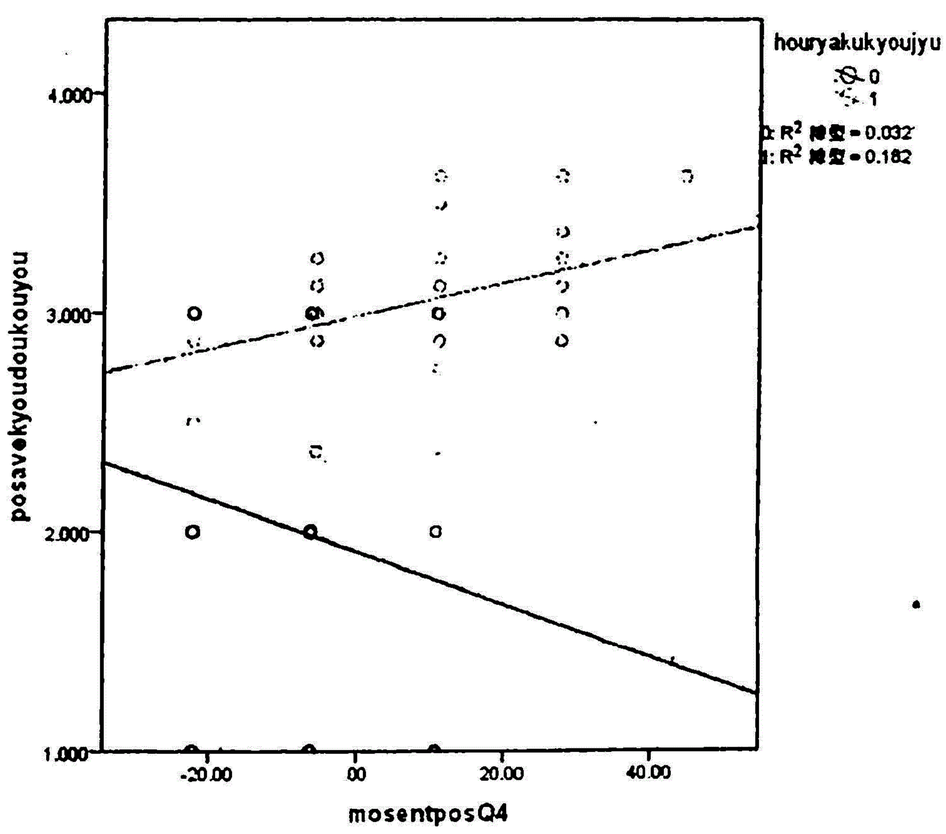

Figure1　協同効用因子と批判的読解力得点の関係